

ISAGAI Lab.

Keio University Shonan Fujisawa Campus

鷹栖町元気プロジェクト 令和5年度年度末報告書



目次

1. プロジェクトの概要	2
1-1. 概要・目的	3
1-2. メンバー	4
2. 今年度の活動まとめ	5
2-1. アンケート	6
2-2. 高校連携	15
3. 今年度の活動報告	21
3-1. 今年度の活動スケジュール	22
3-2. 出張ごと活動詳細	23
4. 成果まとめ	100
4-1. 令和5年度のまとめ	101
4-2. 今年度の成果	102
4-1. 今年度の反省	103
5. 来年度の活動予定	104
5-1. 来年度スケジュール	105
5-2. 来年度活動の詳細	106



1. プロジェクトの概要

1-1. 概要・目的

1-2. メンバー

1-1. 概要・目的

■概要

本プロジェクトでは、鷹栖地区住民センターふらっと（以下、ふらっと）を拠点に、鷹栖町の地域の方の交流が持続的に起こり、活性するための活動を生み出す仕組みを構築することを主眼とする。

■目的

ふらっとでさまざまな活動コンテンツを増やすことで、多様な人が参集し、相互作用を生み出せるような、地域の方の「多世代交流の場」となる活動を創出する。

1-2. メンバー

今年度、大学側は以下のメンバーで、学生が中心となり、教職員はサポーターとして活動した。

教職員・アドバイザー

飯盛 義徳	慶應義塾大学総合政策学部教授
伊藤 玲緒	慶應義塾大学総合政策学部 4 年

学生

新井 もえ	環境情報学部 4 年	落合 真弘	環境情報学部 3 年
小室 彩和	総合政策学部 4 年	加藤 大宗	総合政策学部 3 年
高谷 秀聖	環境情報学部 4 年	●田中 真綾	環境情報学部 2 年
◎小林 美月	総合政策学部 3 年	竹本 晴登	環境情報学部 2 年
●西川 草羽	総合政策学部 3 年	我妻 里莉	総合政策学部 2 年
●キム ミンソン	総合政策学部 3 年	蒲地 陽太郎	総合政策学部 1 年

※ ◎はプロジェクトリーダー、●はサブリーダー



2. 今年度の活動まとめ

2-1. アンケート

2-1-1. アンケート概要

2-1-2. アンケート結果

2-2. 高校生との連携事業

2-2-1. 探究授業参加に向けて

2-2-2. 地域の課外活動

2-1. アンケート

■概要

地域の方のふらっと利用状態を調査し、利用頻度や利用目的、利用時間帯、満足度などを分析することで、住民にとってふらっとの意義や在り方を明確にする。ふらっとに多くの地域の方が訪れる日（鷹栖地区盆踊り大会、たかすマルシェ、たかす誕生まつり）に、その日の利用者を対象とした調査を複数回実施した。

■目的

ふらっとを拠点とした鷹栖町の地域活性のため、利用状況と課題を明確にするため。

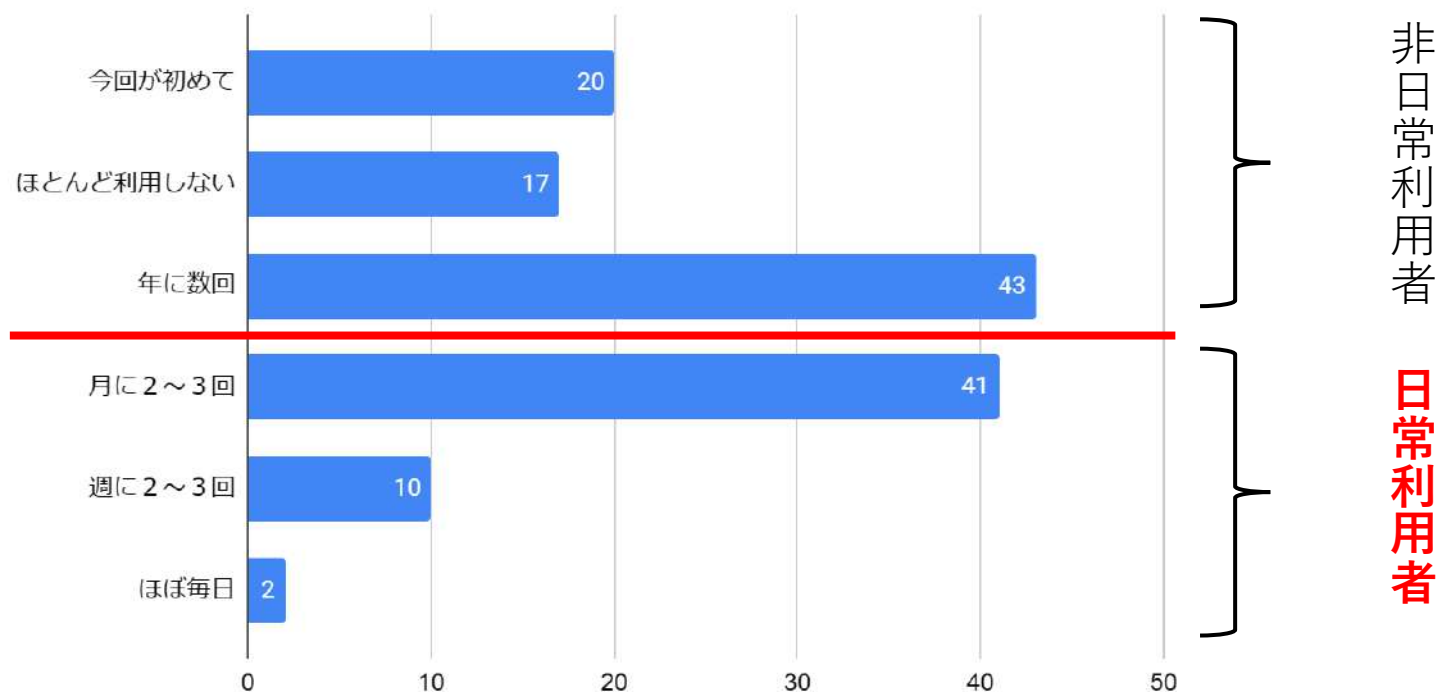
2-1-1. アンケート概要

- アンケート概要

	集計者数(人)	質問項目
盆踊り大会	134	<ul style="list-style-type: none"> ふらっとの利用頻度 ふらっとの利用目的 ふらっとの利用動機
たかすマルシェ	19	<ul style="list-style-type: none"> ふらっとの利用頻度 ふらっとの利用目的
たかす誕生まつり	16	<ul style="list-style-type: none"> ふらっとの利用目的 ふらっとに求めるもの
合計	169	

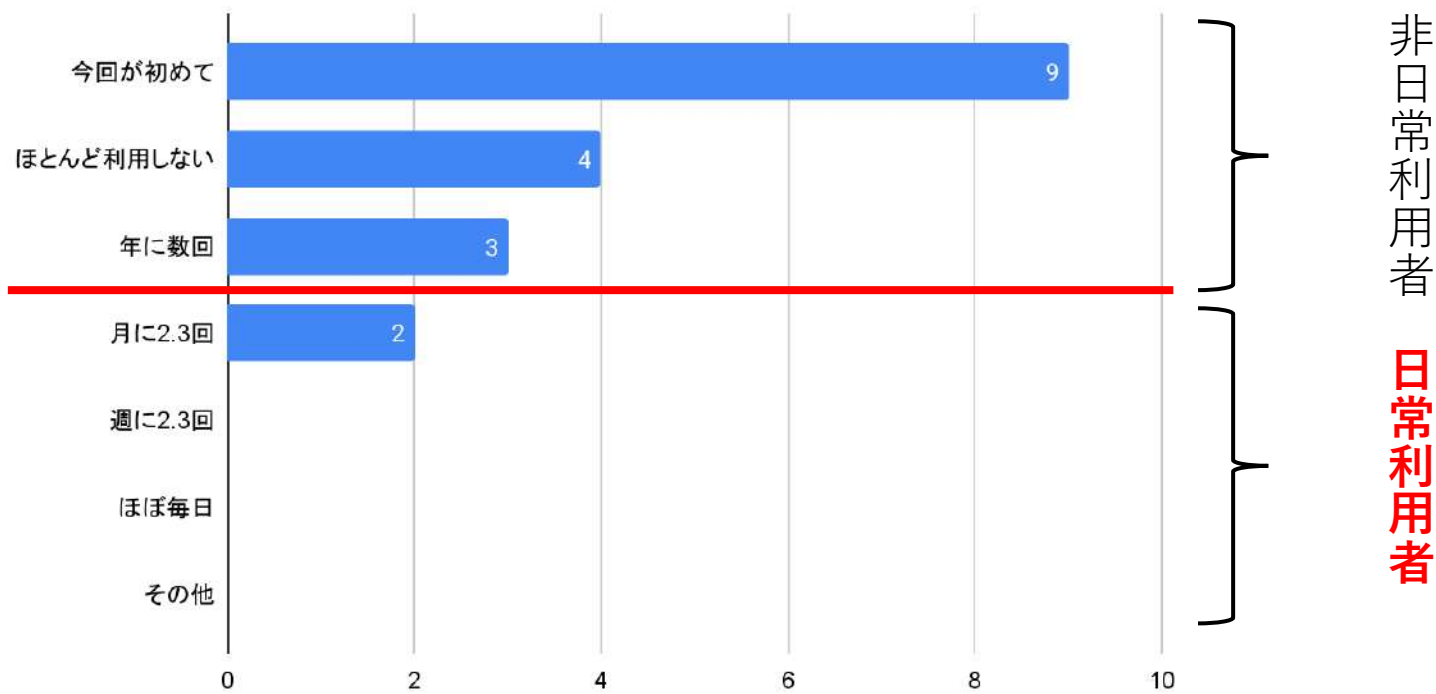
2-1-2. アンケート結果

- ほぼ毎日利用してる人は全体の1.5%のみであり、**月に2～3回以上利用している人は全体の約40%**である。



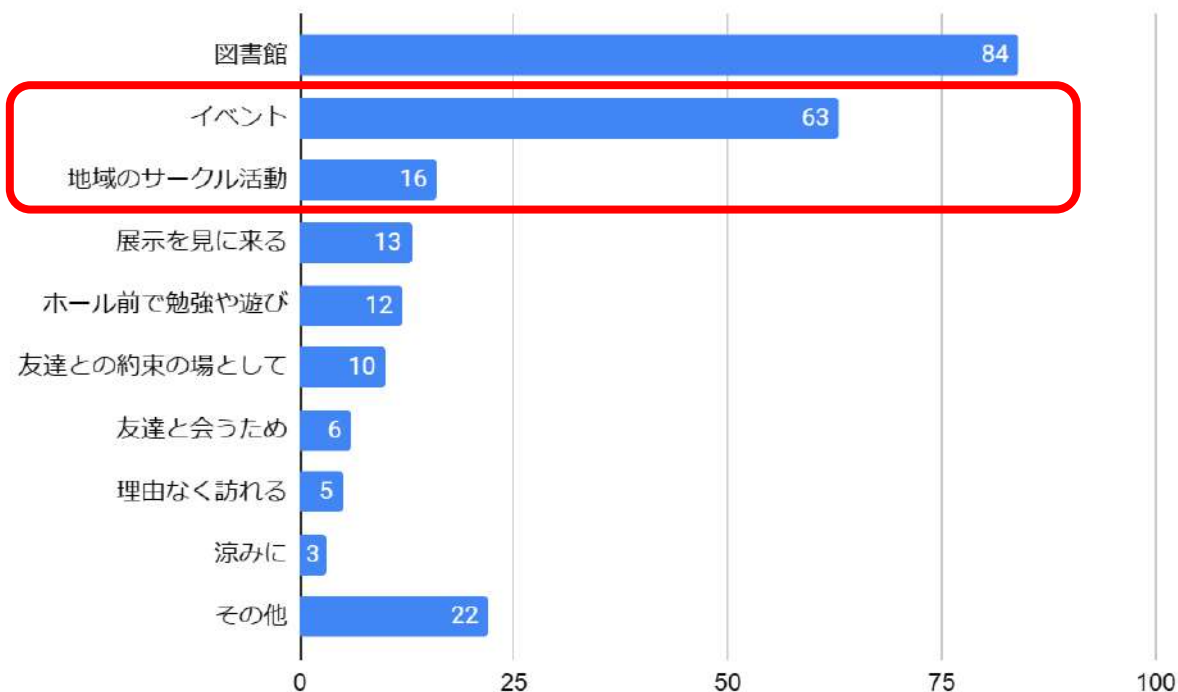
2-1-2. アンケート結果

- 月に2、3回以上利用している人の割合は、約10%のみである。
 →このうち鷹栖町内の利用者は『友人や家族に誘われた』と回答している。



2-1-2. アンケート結果

- 利用目的が多かった項目は、図書館84人、イベント63人を占めている。今後は、日常利用者につながる地域のサークル活動16人に着眼すべきである。



その他)
 お祭り11人、習い事2人、
 スクールバンド2人、学童2人、
 葬儀1人、キャンドル1人、
 児童会1人、バス1人

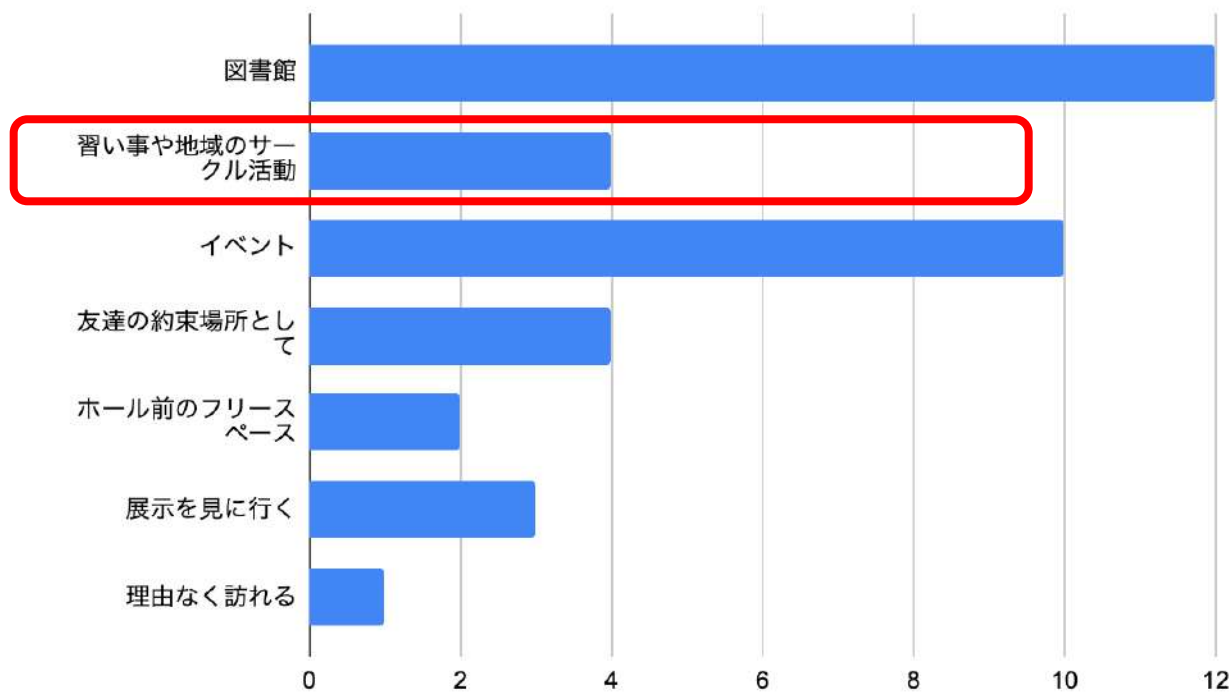
2-1-2. アンケート結果

- イベント利用が全体の約35%と最も多く、図書館の利用と合わせて全体の半数以上を占めている。反対に、地域のサークル活動などの利用者が少ない。



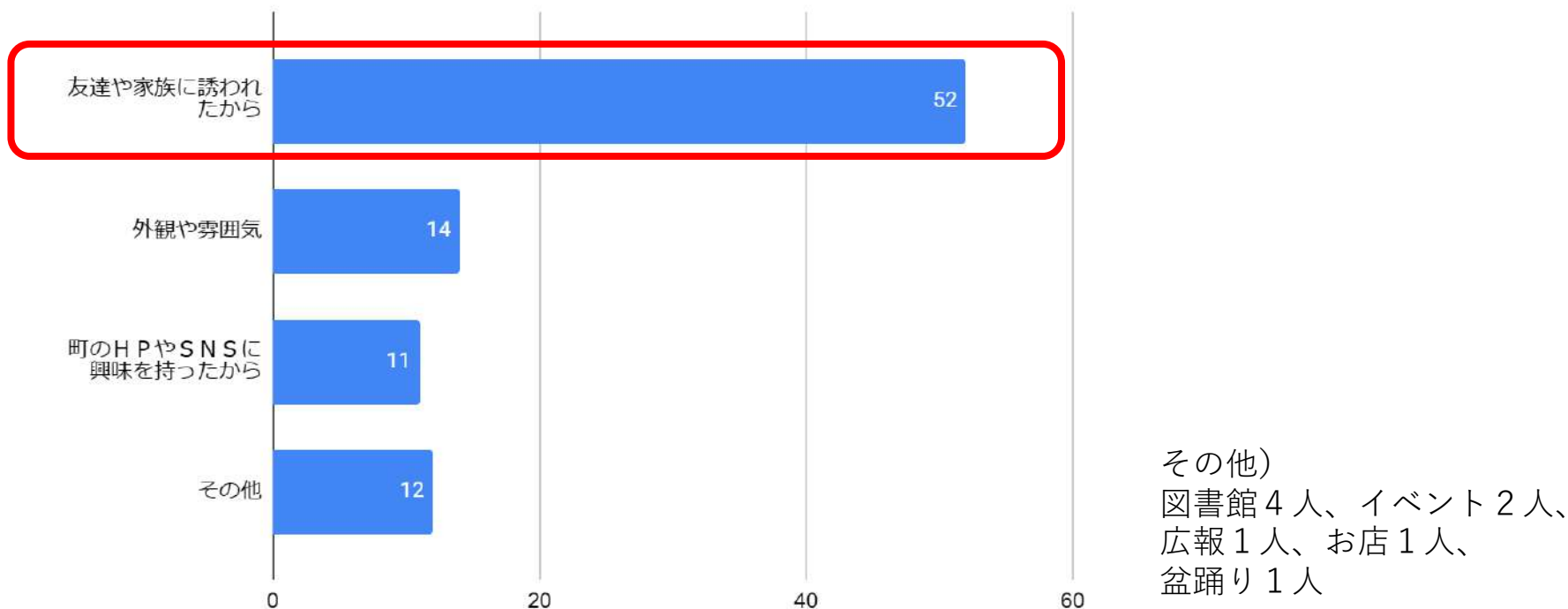
2-1-2. アンケート結果

- 図書館利用の75%に次ぎ、イベント利用が全体の約62%と多い。サークル活動は25%と少なく、友達との約束場所と同様に伸び代があると考えられる。



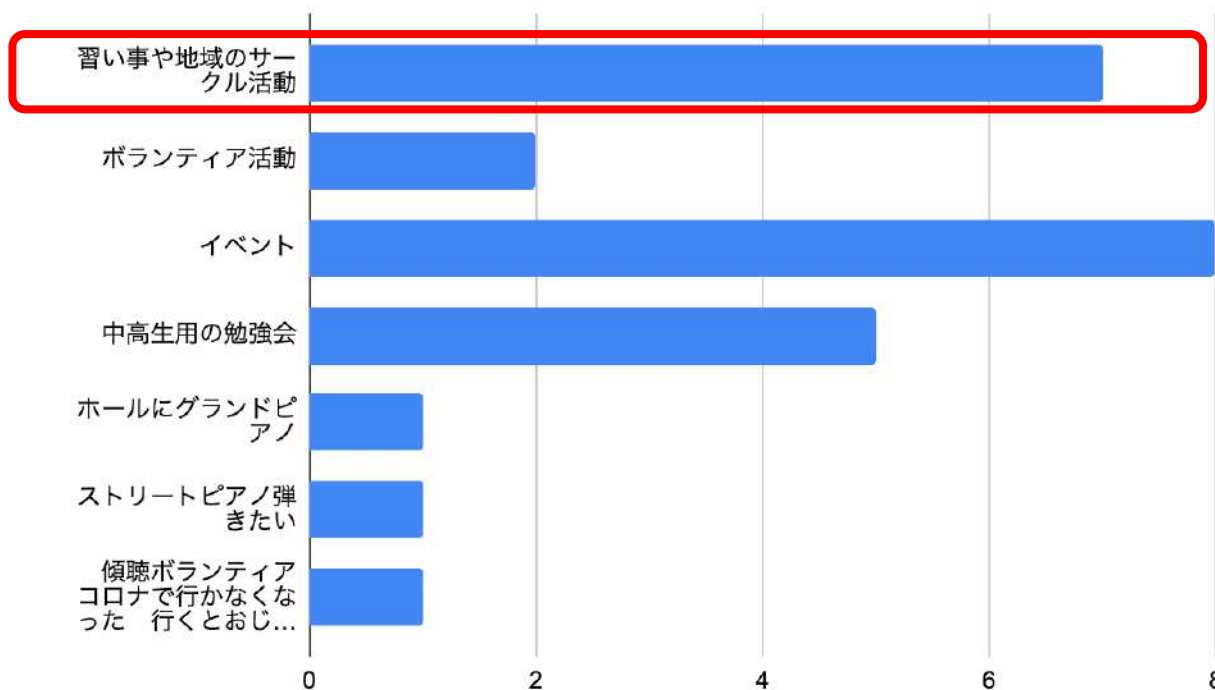
2-1-2. アンケート結果

- 「友達や家族に誘われたから」という理由で初めて訪れた人が52人と58%を占めている。→住民の方同士の話のネタとなるモノを増やすべきである。



2-1-2. アンケート結果

- イベントに次いで「習い事や地域のサークル活動」、「中高生用の勉強会」が多く占めている。→多くの人が通いの場として求めている。



2-2. 高校生との連携事業

■概要

鷹栖高等学校、教育委員会と連携し、鷹栖町にルーツのある高校生に向けた探究教育を普及させる。具体的には、鷹栖高等学校の1年生に向けた地域探究の授業と鷹栖町在住の有志の高校生に向けた探究のサポートの2点を実施する。

■目的

鷹栖町にルーツのある高校生に向けた活動連携を実現するため。

2-2-1. 探究授業参画に向けて

■概要

- 鷹栖高等学校の総合的な探究の時間として、探究力の向上とシビックプライド醸成のために、来年度、年間約6回の授業参画を行うことになった。
- 探究の授業では、探究の視点を持って地域を見ていくことで地域愛を育むことができると考える。また、自主的な活動の中で、自己理解を深めることができる。そのため、大学で地域研究を行う本プロジェクトとこれから鷹栖高等学校で3年間過ごす生徒が探究の授業を通して、鷹栖町の魅力や課題に向き合うことで、地域学習への相互作用が生まれると考えた。
- また、地域に根付かせることを目的に旭川市立大学の黒川伸一ゼミと協力して実施していくこととなった。

2-2-1. 探究授業参画に向けて

鷹栖高等学校校長の大橋一夫氏と教頭の杉山賢一氏と打ち合わせを行い、鷹栖高等学校の学生の様子やカリキュラムの詳細を伺った。飯盛義徳研究会メンバーが参画することに対し、大変前向きな意見をいただいた。また、国語の授業にもゲストとして参加した。

■ 打ち合わせ内容

在校生徒数や主な在住地域、進路などの鷹栖高等学校の詳細を伺い、来年度連携を行うにあたっての事前確認を行った。

■ 国語の授業への参加

11月に高校3年生の「社会に出るにあたって」というテーマの国語の授業に飯盛義徳研究会メンバー4名が参加し、私たちの高校生への接し方を実際見てもらうことで、鷹栖高等学校の先生方に来年度の授業参画のイメージを持ってもらった。



2-2-1. 探究授業参画に向けて

来年度からの授業参画に向けて、3月19日に試験授業として、「日常を探究の視点で見ることで、ワクワクした毎を送ろう」というタイトルで授業を行った。

■概要

- 対象：鷹栖高等学校2年生36名
- 時間：2限目、3限目
- 大学生：飯盛義徳研究会メンバー4名、旭川市立大学黒川伸一ゼミメンバー1名
- 目的：日常を探究の視点でみる
 - 「灯台下暗し」の体感
 - 日常にあるものを思い出して描く
 - 問いの発見ワーク
 - 学校内の不思議に対して問いを作る

2-2-1. 探究授業参画に向けて

鷹栖高等学校では、4～6回程度（10月まで月1程度）での訪問を行い、授業に参加する予定。また、鷹栖町内在住の高校生に向けても教育委員会と連携して、探究授業を実施する予定である。

■鷹栖高校探究授業の日程

- 4月・5月：事前学習への参加
- 6月13（木）～14日（金）：【確定】地域巡査、ネイパル深川
- 7月：授業（仮）
- 8月：授業（仮）
- 9月：地域探究学年発表会準備
- 10月：地域探究学年発表会

■教育委員会連携事業詳細

鷹栖町内在住の高校生に向けた探究授業を開講していく予定である。実施の詳細については、教育委員会とともに来年度深めていく。

2-2-2. 地域の課外活動

2月3日に開催されたたかす誕生まつり前夜祭に、鷹栖高等学校のボランティア部の学生に「冬の遊び場づくり」の運営に参加してもらい、鷹栖町のお祭りに触れ、地域の方との交流を図った。

■ たかす誕生まつりについて

- たかす誕生まつりでは、地域活動への参加機会として、ボランティア部、美術部の学生とともに、雪の遊び場づくりを行った。町内在住の小中高校生や旭川市立大学黒川伸一ゼミの学生との交流機会につながった。
- ふらっとに訪れた子供たちに向けて、すべり台・かまくらを設けることによって幅広い世代が楽しめる場を提供した。高校生には、すべり台の安全確認などのサポートも行ってもらった。

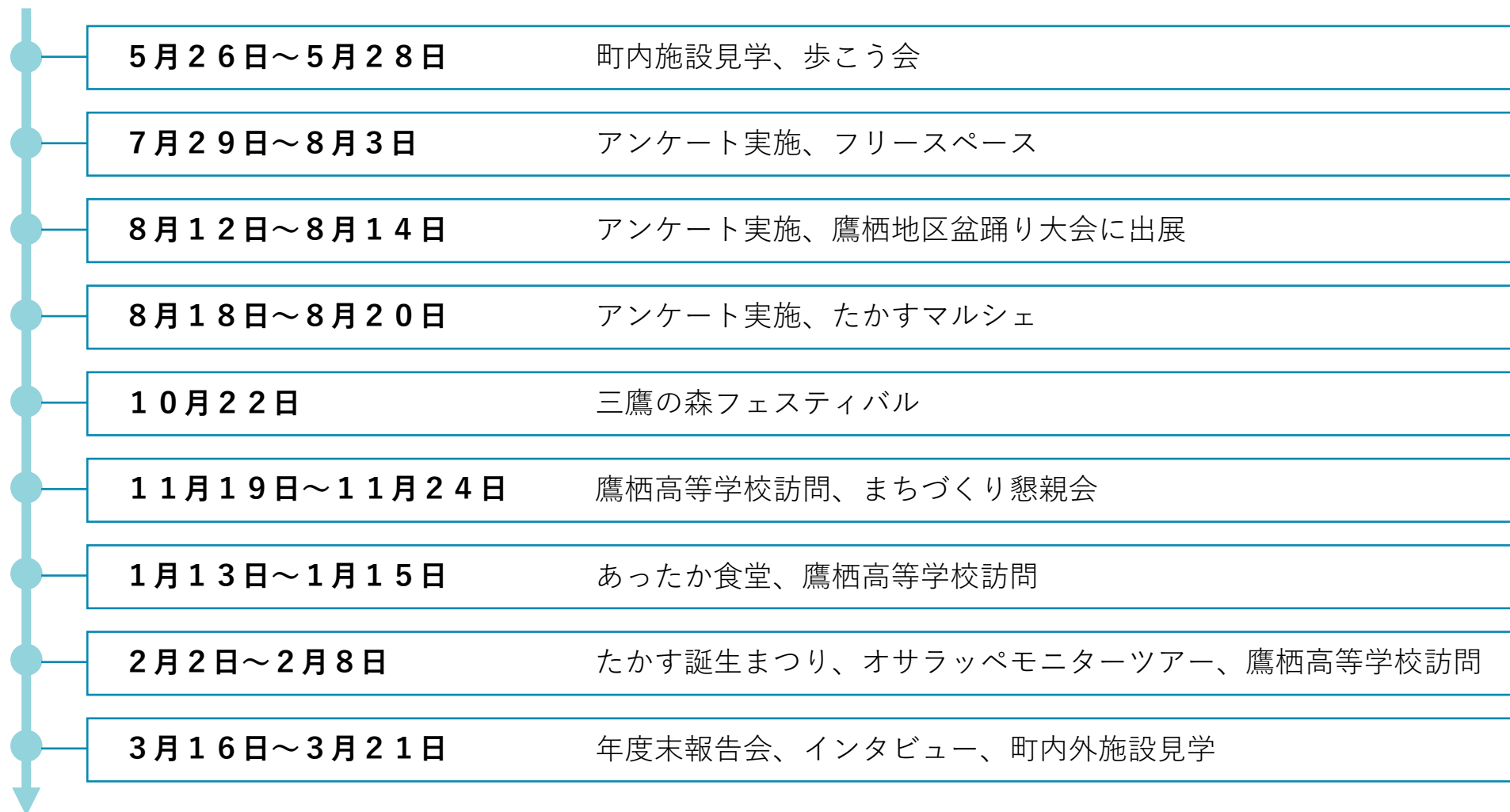




3. 今年度の活動報告

- 3-1. 今年度の活動スケジュール
- 3-2. 出張ごと活動詳細

今年度の活動スケジュール



5月26～28日活動報告

「歩こう会」への参加と企画運営の補助を行うため、「歩こう会」の実施日程に合わせて訪問した。「歩こう会」の準備から本番にかけて参加することができた。その結果、今後のプロジェクトの方針のすり合わせをすることができた。また、今年度から本プロジェクトに所属した新メンバーが鷹栖町に対する理解を深める機会にもなった。

■目的

地域イベントの一つである「歩こう会」の運営補助と参加により、地域の方のリアルな声をインプットし、ふらっとの効果的な利活用を行うために、学生が行うことに意義がある内容をフィールドワークや打ち合わせを通してすり合わせ、決定するため。

■出張メンバー

高谷秀聖、キムミンソン、小林美月、田中真綾、我妻里莉

5月26～28日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
5月26日	町内フィールドワーク	加藤瑛瑠氏の工房見学、歩こう会の下見・打ち合わせ
5月27日	町内フィールドワーク	あったかファーム、コレカラ訪問
5月28日	歩こう会（運営・参加）	歩こう会の企画運営補助・交流

■成果

「歩こう会」という、多くの地域の方が参加するイベントに携わり、準備や運営補佐を行うことで、これまで関わる機会が少なかった地域の方と交流をし、新しい視点からのふらっとの利活用方法を考えるための参考を得た。また、学生自らがイベントに準備から参加することで地域の方との交流の機会も多く得ることができた。

5月26～28日活動報告

■ 5月26日（1日目）

工房そなもの加藤瑛瑠氏を訪問し、寄木細工の作業場とショーケースを見学した。説明をしていただきながら、「ふらっと」でワークショップや作品利用などを通してコラボすることでふらっと内に活気を持たせることができるのではと構想の幅が広がった。午後は、歩こう会の下見をかねて街を歩くとともに、鷹栖町の歴史を学んだ。

■ 5月27日（2日目）

鷹栖町農業交流センター「あったかファーム」を訪問し、北海道では珍しいきゅうりの栽培テントを見学した。その後、フィットネス倶楽部コレカラでレッドコード体験と見学をした。地域の方が交流している姿や雰囲気を感じた。



5月26～28日活動報告

■ 5月28日（3日目）

歩こう会に参加し、地域の方とふらっとからパレットヒルズまで4 km歩いた。実際、過去に関わりがなかった地域の方ともお話をしながら歩くことで、我々学生、鷹栖町、ふらっとに対する意見や思いを知ることができた。また、歩きながらオサラッペまちづくり研究会の側氏の講話から鷹栖町の歴史について学んだ。復習として歩こう会の概要と歴史クイズをまとめた動画を作成したことで、地域の方の理解をより深められたと考える。他にも、私たちが企画した「鷹栖を撮ろう！」では、地域の方に風景や互いの写真をイベント中に集めてもらい、鷹栖町の魅力の再認識を促し、我々学生や地域の方同士の交流を深められるコンテンツとなった。



7月29日～8月3日活動報告

地域の方にふらっとの利活用に関するアンケート調査を行うため、鷹栖町図書室でのイベントに子どもたちのお手伝いとして参加したり、子育て支援センターで利用者の方へインタビューを行ったりして交流を図った。また、ふらっとにて試験的にフリースペースを解放した。

■目的

子どもから大人の方まで、多世代にわたる地域の方と交流し、ふらっとや鷹栖町に対する思いを一人一人から聞くため。また、更なる関係構築を図るため。

■参加メンバー

小室彩和、小林美月、田中真綾

7月29日～8月3日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
7月29日	ふらっと訪問	たかすマルシェ・鷹栖町図書室の見学
7月30日	鷹栖町図書室イベント参加	「あったかすくんをすくえ！」にお手伝いとして参加
7月31日	子育て支援センターに訪問	利用者にインタビューの実施
8月1日	フリースペース	フリースペースの開放
8月2日	フリースペース	地域の小学生との交流
8月3日	フリースペース	関係の構築

7月29日～8月3日活動報告

■成果

フィールドワーク前半は、ふらっとを拠点とした鷹栖町の活性化に向けて地域の方や鷹栖町に来た方を対象に作成したふらっとの利活用に関するアンケートをもとに、鷹栖町図書室でのイベント参加や町内施設の訪問を通じて地域の方のお話を伺った。後半では、フリースペースの開放を行い、地域の未就学児から小学校高学年まで幅広くコミュニケーションを取ることができた。

全体を通して、小学生から大人の方まで多世代に渡って一人一人と雑談を交えながらお話をすることで、地域の方が何を感じながら過ごしているか素直な意見を引き出すことができ、今まで以上に深く交流することと新たな課題を発見することができた。また、地域の方の日常に溶け込みながら交流することができたため、本プロジェクトの認知度向上と地域の方との関係を構築することができた。

7月29日～8月3日活動報告

■ 7月29日（1日目）

ふらっとに訪問し、たかすマルシェの見学と鷹栖町図書室の視察を行なった。また、ふらっと周辺で犬の散歩中のご夫婦に街頭インタビューを行うことで、ふらっとの利活用状況とふらっとへの要望を伺い、新たな利用の可能性について発見することができた。

■ 7月30日（2日目）

鷹栖町図書室で開催された謎解きイベント「あったかすくんをすくえ！」に小中学生のサポートとして参加した。みんなで頭を抱えながら同じ謎を解き、図書室内を歩き回ること打ち解け合うことができ、子どもたちからのふらっとに関する素直な意見を得ることができた。また、お迎えに来た保護者の方にもインタビューを実施し、このイベントのように子どもたちが分け隔てなく交流できる場を希望していることがわかった。



7月29日～8月3日活動報告

■ 7月31日（3日目）

鷹栖地区子育て支援センター「ぽこ・あ・ぽこ」に訪問し、子育て中のお母さん3名と保育士さんに、ふらっとと鷹栖町のあり方について雑談を交えながらインタビューを行なった。お子さんが小さいためふらっとには鷹栖町図書室の利用目的で訪れることと、鷹栖町の子育て支援の充実さについて知ることができ、利用者の方との関係を構築することができた。



■ 8月1日～3日（4～6日目）

ふらっとでフリースペースを解放した。初日から鷹栖小学校の子どもたちが夏休みの宿題に一生懸命取り組んでいる様子が見られた。また、体操用のマットや跳び箱も用意し、勉強の合間に楽しんでいる様子も見られた。他にも、一緒にオセロをしたり、似顔絵の描き合いっこなどを通して鷹栖町の宝である子どもたちと仲を深めることができた。



8月12～14日活動報告

8月13日に開催された鷹栖地区の盆踊り大会に日程をあわせて訪問し、活動を行なった。当日はこども縁日ブースの運営サポート並行して、地域の方へふらっとの利用に関するアンケート調査を実施した。約150件の回答をいただき、内容を精査することで、ふらっとの更なる活用に向けての指針を得た。

■目的

鷹栖地区盆踊り大会の運営をサポートするため。並びに、多くの地域の方が集う場でふらっとの利用に関するアンケートを実施するため。

■参加メンバー

落合真弘、小林美月、西川草羽

8月12～14日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
8月12日	盆踊り大会前日準備	大会当日の準備のサポート
8月13日	盆踊り大会	こども縁日の運営、アンケートの実施
8月14日	アンケート集計	前日のアンケートの集計と分析

8月12～14日活動報告

■成果

地域の方が集う一大イベントである盆踊り大会に参加することで、より多くの方との交流を行うことができた。特に、直接運営に携わる立場ではない地域の方から、利用者目線での率直な意見を聞かせていただけたことは大きな成果と言える。当日行ったアンケートにはおよそ150名の方からのご回答をいただき、後日詳細な分析を行なった。その結果、地域の方はふらっとに対して「定期的に通えるような活動」を求めていることがわかった。地域の方の率直な意見を踏まえて今後の活動方針についての再検討を行い、地域魅力発信・探究活動という、今後の効果的な活動方針の策定につながった。

8月12～14日活動報告

■ 8月12日（1日目）

翌日の鷹栖地区盆踊り大会に備えて、地域の方とともに準備に励んだ。一緒に活動する中で交流が深まり、関係構築ならびに本プロジェクトの認知度向上を促すことができた。また、訪れた方に向けて行うアンケートやインタビュー内容の最終調整を行なった。

■ 8月13日（2日目）

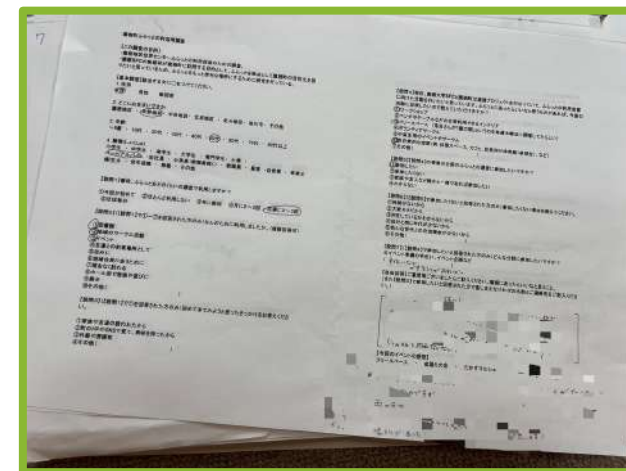
2日目は盆踊り大会当日であった。開会時間までは運営委員会の方とともに会場設営を行った。焼きそば・焼き鳥の調理をお手伝いしたメンバーもいた。開催時間中は、こども縁日の運営を担当し、およそ200名のこどもたちとの交流の機会を得た。並行してふらっとの利用に関するアンケート調査も進め、大人の方からより詳細なお話を伺うこともできた。



8月12～14日活動報告

■ 8月14日（3日目）

アンケートの集計作業を行なった。加えて、インタビュー内容をより鮮明に記憶しているうちに、今後のふらっとの利活用に関するアイデア創出の議論も行なった。



8月18～20日活動報告

たかすマルシェにて「意見のなる木」の設置と訪れた方に対するアンケート調査を行い、集計してまとめることでふらっとのあり方について改めて考えることができた。

■目的

ふらっとの利用経験改善の一環として、たかすマルシェの日程に合わせて「意見のなる木」の設置とアンケートを実施し、その結果を集計するため。

■参加メンバー

新井もえ、キムミンソン、小林美月、田中真綾

8月18～20日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
8月18日	たかすマルシェの準備	たかすマルシェとアンケート実施に向けた準備
8月19日	たかすマルシェに参加	地域の方にインタビューの実施
8月19日	盆踊り大会に参加	中央地区住民センター視察、盆踊り大会に参加
8月20日	アンケートの集計作業	前日のアンケートの集計と分析
8月20日	ふらっと内掲示物作成	掲示物の作成・展示準備

■成果

一人一人にインタビューを実施することで深く交流することができ、地域の方の意識調査や紙のアンケートでは知ることのできないような率直な意見や理由を聞き取ることができた。また、「意見のなる木」をふらっとに設置することによって、ふらっとに対する要望を子どもから大人まで幅広く得ることができ、今後の活動における指針となった。

8月18～20日活動報告

■ 8月18日（1日目）

ふらっとの一室でたかすマルシェの準備をメインで行なった。ふらっとに訪れた方の意見を気軽に知るために、模造紙に大きな木を描いた「意見のなる木」を作成した。

■ 8月19日（2日目）

午前はたかすマルシェ、夕方から中央地区盆踊り大会に参加した。たかすマルシェでは、訪れた方に事前に作成したアンケートをもとにふらっとの利用認識調査を行った。中央地区で開催された盆踊り大会では、町内外問わず多くの方が交流していることを感じる事ができた。また、参加した盆踊り大会の仮装盆踊り部門で3位を取ることができた。



8月18～20日活動報告

■ 8月20日（3日目）

2日目に行ったアンケートの集計を行なった。インタビューの内容を振り返りながらスプレッドシートにまとめ、新たな課題の発見や今後の活動方針を再検討することができた。また、その日にふらっとで何が行われているのか、ふらっとを訪れた方が一目見てわかるように曜日ごとのイベントをまとめたシートを作成し、展示した。



10月22日活動報告

東京都三鷹市主催の「三鷹の森フェスティバル」で、鷹栖町が出店されていたので、物品販売のお手伝いを行った。

■目的

物品販売を通して、鷹栖町の特産品をより深く知り、地域の方とさらに親睦を深めることで、地域外（東京都）での鷹栖町の認知度向上に貢献するため。

■出張メンバー

キムミンソン、小林美月、蒲地陽太郎

10月22日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
10月22日	三鷹の森フェスティバル	東京都三鷹市で鷹栖町の物品販売

■成果

鷹栖町長谷寿男氏をはじめとした地域の方と鷹栖町外での新たな交流を図ることができた。さらに、鷹栖町の特産品を改めて知る機会となり、地域の魅力をより一層深めることにつながった。

10月22日活動報告

■ 10月22日

三鷹市井の頭恩賜公園にて開催された「三鷹の森フェスティバル」に、鷹栖町が姉妹都市として出店し、当日物品販売等のお手伝いを行った。4年ぶりの通常開催となった今回は、非常に多くの方が来場し、会場は大賑わいとなった。今回、物品販売のお手伝いしている中で、商品の見せ方や伝え方ひとつで販売の状況が大きく変わってくることを肌で実感し、「情報や魅力」を相手に伝えることの難しさと楽しさを強く感じた。試行錯誤を繰り返しながらも、全ての商品を完売することができ、今回の機会を通してより多くの方に鷹栖町の魅力を届けることができた。



11月19～24日活動報告

教育委員会の方との打ち合わせを行い、20日に提案した鷹栖高等学校での探究の授業に関する活動を形にするために鷹栖町と協力しあえる方法を模索した。また、旭川市立大学黒川伸一ゼミとの顔合わせを行い、今後の活動を促進させる為の関係性を築く事ができた。

■目的

まちづくり懇談会にて地域の方との関係構築を図るため。また、今後の活動活性のために旭川市立大学黒川伸一ゼミとの交流や鷹栖高等学校と連携のための打ち合わせを行うため。

■参加メンバー

落合真弘、加藤大宗、キムミンソン、小林美月、田中真綾

11月19～24日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
11月19日	避難訓練への参加	スマートフォンを使用したアンケートのお手伝い
11月20日	鷹栖高等学校への訪問	3年生の国語のインタビューに関する授業をお手伝い
11月20日	鷹栖町役場への訪問	鷹栖町長谷寿男氏への中間報告
11月21日	旭川市立大学黒川伸一ゼミとの顔合わせ	それぞれのゼミに関わるワークショップの実施
11月21日	ふらっとにて打ち合わせ	教育委員会・ふらっとGOとの今後の打ち合わせ
11月22日	クリスマスツリー作り	町有林の木を使用したクリスマスツリーの準備
11月22日	まちづくり懇談会	地域の方と鷹栖町やまちづくりについて意見交換
11月23日	オサラッペまちづくり研究会への参加	鷹栖町の文化や歴史についての講話に参加・交流
11月24日	今後の方針の打ち合わせ	出張の振り返りと今後の方針についての打ち合わせ

11月19～24日活動報告

■成果

避難が必要になった際、「どのように避難すればよいのか」というテーマで行われた講習会では、避難の際に必要な物は一人一人異なるということを学んだ。私たちの研究テーマであるまちづくりの過程の中で、地域の方に向き合うことは言うまでもなく非常に大切なことであり、今後もまちづくりと防災に関する取り組みを効果的に活動できるように邁進していきたい。そして、鷹栖高等学校では、高校生の視野を広げることを目標に、3年生の国語のインタビューに関する授業運営のお手伝いを行い、高校を卒業し社会に出ることや大学進学に関しての質問を受け、少し先を行く先輩として経験をもとにしたお話を伝えることができた。旭川市立大学黒川伸一ゼミの学生と鷹栖町の未来に関する議論を行うことができたことも、私たちが活動を行なっていく上で非常に視野を広げてくれる貴重な機会となった。また、まちづくり懇談会を通して、約30名の地域の方と共に地域の課題や今後の可能性について意見交換を行うことができた。その後開催したオサラッペまちづくり研究会の方とのお話を通して、鷹栖町の文化や歴史について学ぶことができた。

11月19～24日活動報告

■ 11月19日（1日目）

ふらっとで開催された避難訓練と防災についての講演会に参加した。防災無線での避難アナウンス後、ふらっとに避難する地域の方に向けての避難情報収集アンケートがスマートフォンで実施され、そのサポートを行なった。住民の避難情報をスムーズに集めることや、地域の方にスマートフォンを使ったウェブアンケートを実施することの難しさを知った。

■ 11月20日（2日目）

鷹栖高等学校へ訪問し、インタビューに関する授業にゲストとして参加した。高校を卒業し社会に出ることや、大学進学に関してのインタビューに対しアドバイスをして交流を図った。また、鷹栖町役場にて町長谷寿男氏へプロジェクト活動の中間報告を行い、昨年度の合宿から現在までどのような活動を行ってきたのか、そして今後の活動計画を報告した。

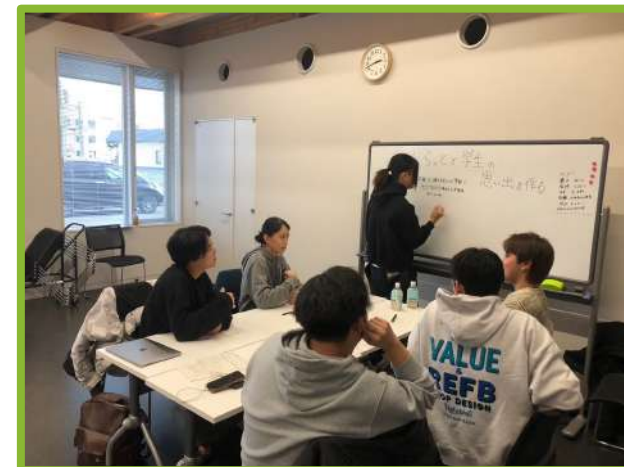


11月19～24日活動報告

■ 11月21日（3日目）

鷹栖町で活動をしている旭川市立大学の黒川伸一氏、および黒川伸一ゼミの学生と意見交換を行なった。黒川伸一ゼミでは鷹栖町内の野菜を活用した地域活性の方法としてなすジャムを製作していることを伺った。その後、2つのグループに分かれてそれぞれのゼミに関わる新しい活動を考えるワークショップを行い、同じ鷹栖町で活動する大学生同士、楽しく面白いアイデアを考えることができた。この交流を通して、今後の活動協力に向けて黒川伸一ゼミの方と関係を構築することができた。

また、教育委員会の方との打ち合わせを行い、20日に提案した鷹栖高等学校での探究の授業に関する活動を形にするために、鷹栖町と協力しあえる方法を模索した。その後、ふらっとGOの方と打ち合わせを行い、ふらっとにて計画していた「シェアBOX」という企画に関する意見交換を行なった。



11月19～24日活動報告

■ 11月22日（4日目）

午前中は、ふらっとでクリスマスツリーの準備を手伝った。町有林の木を使用したツリーに、町内で拾ったまつぼっくりやオーナメントを使って飾り付けを行なった。クリスマスに向けて、地域の方が木の板にイラストや文字を書いたものを飾っていくため、地域の方の協力で徐々に完成することにとっても魅力を感じた。

午後は、ふらっとで行われたまちづくり懇談会に参加した。集まった約30名の地域の方の前でメンバーが自己紹介をしたあと、5つのグループに分かれて鷹栖町の課題や今後の可能性について意見交換を行なった。ふらっとの活用法などのソフト面だけでなく、ハード面での課題についても率直な意見を聞くことができ、地域の方が望んでいることとして今後の活動を考える上でのヒントを得ることができた。また、飲食を通じて交流することで、今後の活動に繋がる関係を築くことができた。



11月19～24日活動報告

■ 11月23日（5日目）

午前は、オサラッペまちづくり研究会の活動に参加し、鷹栖町の文化や歴史についての話を伺った。幼少期を鷹栖町で過ごした方から当時の生活について興味深い話を聞くことができ、歴史や文化を今後も伝えていくための活動について考える機会となった。午後は、ふらっとで行われた高橋梢氏主催の「きたくる広場」という子ども服をはじめとする不用品の回収・譲渡を行う場に参加し、ふらっとでの活動における利点や課題を実感した。

■ 11月24日（6日目）

今回の出張の振り返りと今後の方針について、鷹栖町役場の方と打ち合わせを行なった。鷹栖高等学校との連携や旭川市立大学・オサラッペまちづくり研究会との交流、ふらっとでの活動など、次回の訪問に向けてどんな準備や打ち合わせが必要であるか明確化した。



1月13～15日活動報告

ふらっとでのイベントに参加することで地域の方との交流を深め、更なる関係構築に励んだ。また、2月の訪問に向けて打ち合わせを行い、今後の活動内容を定めることができた。最終日には鷹栖高等学校や鷹栖町役場との打ち合わせを行い、来年度の連携に向けてのスケジュールや方針について共有・意見交換した。

■目的

来年度の主軸の活動である鷹栖高等学校との連携に向けて、顔合わせや活動方針決めの打ち合わせを行うため。また、今後の活動活性のために行政や地域の方との交流を行うため。

■参加メンバー

落合真弘、小林美月、田中真綾、蒲地陽太郎

1月13～15日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
1月13日	「あったか食堂」参加	地域の方と海苔巻き作りの体験・交流
1月14日	たかす誕生まつりの準備	企画の打ち合わせ、かまくらづくりの試行
1月15日	鷹栖高等学校訪問	来年度以降の連携活動に向けた打ち合わせ
1月15日	鷹栖町役場との打ち合わせ	今後の活動に向けての確認

1月13～15日活動報告

■成果

「あったか食堂」という子どもから高齢者の方まで多世代にわたって参加しているイベントに、飯盛義徳研究会メンバーも準備の時点から作って食べる時間まで一緒に参加することで、地域の方との交流を深め、信頼関係の構築を更に図ることができた。

また、鷹栖高等学校の先生方との対面での打ち合わせを行うことで、さまざまなお話の中から新たな発見や今後の活動におけるヒントを得ることができ、活動方針について改めて考える機会となった。更に、来年度の授業参画に先駆けて鷹栖高等学校の学生の雰囲気を知むために、3月に2年生の「総合的な探究の時間」の授業を私たちが試験的に実施することとなり、より具体的な計画を立てていくことが可能となった。

1月13～15日活動報告

■ 1月13日（1日目）

ふらっとで開催された「あったか食堂」に参加し、特別新春企画としてロング海苔巻きを地域の方とともに作って食べるという体験をした。この時間は、町民同士の交流の場として機能しているだけでなく、外からきた私たちがのような学生と地域の方が繋がれる時間でもあり、非常に有意義に過ごすことができた。



■ 1月14日（2日目）

2月に備えているたかす誕生まつりに向けて、当日運営する企画の構成・準備について話し合う時間となった。議論の末「かまくら」と「すべり台」を制作することに決定し、当日までにかかる制作時間や労力を知っておくために実際に試作品を制作した。また、当日の運営に伴い、小中学生のボランティアを募集する方針となった。



1月13～15日活動報告

■ 1月15日（3日目）

新学期初日の鷹栖高等学校を訪問し、先生方と打ち合わせを行なった。始めに11月の訪問時に実施した授業に対する先生と学生からのフィードバックがあり、今後の活動を進める上での自信につながった。その後、2024年度の探究授業参画による連携活動に向けての提案と意見交換を行い、来年度に先駆けて3月の訪問時に「総合的な探究の時間」の授業を試験的に実施することとなった。



2月2～8日活動報告

今回は、「たかす誕生まつり」の準備のお手伝いや当日の企画運営を行った。また、オサラッペモニターツアーにも参加でき、鷹栖町の魅力を再発見する機会となった。この他にも、ふらっと広場を通して地域の方と関わる機会を持つなど、貴重な時間を過ごすことができた。

■目的

鷹栖町の一大イベントであるたかす誕生まつりの運営サポートや鷹栖町の子どもたちと雪像づくりを通して、ふらっと内で地域活動を盛んにするため。また、鷹栖高等学校や旭川市立大学黒川伸一ゼミと意見交換を行い、来年度の具体的な活動方針を明確にするため。その他、鷹栖町のツアーに参加したり、旭川雪まつりなど、雪の降る地域ならではの活動を視察することで、地域による活動違いを勉強するため。

■参加メンバー

落合真弘、加藤大宗、キムミンソン、小林美月、竹本晴登、田中真綾、蒲地陽太郎

2月2～8日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
2月2日	たかす誕生まつりの準備	誕生まつりに向けた準備のサポート
2月3日	たかす誕生まつりの準備	誕生まつりに向けた準備のサポート
2月4日	たかす誕生まつりの運営	誕生まつりに向けた準備のサポート、当日の企画運営
2月5日	モニターツアー体験	「たかすてきツーリズム推進協議会」主催のツアーを体験
2月6日	モニターツアー体験	ツアーとしておさらっぺ焼きを体験
2月6日	旭川市立大学黒川伸一ゼミとの意見交換	旭川市立大学にて黒川伸一ゼミとの意見交換を実施
2月7日	ふらっと広場の開催	ふらっとのコワーキングスペースを活用し、「ふらっと広場」を開催
2月8日	旭川雪まつりの視察	旭川市で開催されていた旭川雪まつりを見学

2月2～8日活動報告

■成果

たかす誕生まつりにて、今後連携予定の旭川市立大学黒川伸一ゼミの学生と鷹栖高等学校ボランティア部・美術部の学生と協力し、雪の遊び道具づくりを行なった。このような連携活動を行うことで、鷹栖町で活動する他の団体からの新たな視点や活動方針を見つけることができ、町全体の活性化に繋がれると感じた。さらに、地域の方とお祭りやモニターツアー、ふらっと広場を通して話を聞く機会に恵まれ、普段より近い距離で町への思いを聞くことができた。そして、地域の方が思う鷹栖町への想いや将来像を聞くこともできた。この地域の方が望む姿を実現できるように本プロジェクトでの活動を通して、今後も目指していきたいと思う。

2月2～8日活動報告

■ 2月2日（1日目）

初日は、鷹栖地区の誕生を記念する『たかす誕生まつり』の前日準備。雪遊びで子供たちに楽しんでもらいたいという思いから今年は飯盛義徳研究会主催で雪の遊び場を設置した。「寒さ」、「重さ」、「雪質」という3つの課題に悩んだが、鷹栖町役場の方や旭川市立大学黒川伸一ゼミの学生の知恵をお借りし、雪の上から水をかけて硬く固めることで無事完成した。

■ 2月3日（2日目）

2日目はたかす誕生まつり前夜祭。前夜祭では、町内外から寄せられた1200個の紙袋ランタンと蝋燭が灯される。鷹栖町の雪と夜の中に紙袋ランタンが綺麗に映え、来場者の多くがカメラを構え楽しんでいました。私たちが制作したすべり台も好評で、子どもたちがひっきりなしに滑っていた。20時になり、たかす誕生まつりの前夜祭が無事終わった。



2月2～8日活動報告

■ 2月4日（3日目）

この日はたかす誕生まつり本祭。地域で活躍するサークル活動や鷹栖地区内の小中学生の屋内発表が行われた。地域の方の合唱や吹奏楽の中で、本プロジェクトからも竹本と加藤の2人も出演させていただき、鷹栖町をイメージした鷹の舞を披露した。お客さんからも好評で創作に至った理由や参考にした芸能など様々な質問が寄せられた。



■ 2月5日（4日目）

鷹栖町の歴史などを観光につなげようとする試みとして行われたオサラッペモニターツアーに参加した。ツアーの初日は馬ソリ体験をし、鷹栖町を語るには欠かせない大切な存在である「馬」との歴史について地域の方のお話を伺った。当時の鷹栖町において馬がどれほど密接にかかわっていたかを学ぶことができ、観光資源としての可能性を感じた。



2月2～8日活動報告

■ 2月6日（5日目）

大正時代から昭和初期にかけて実際に鷹栖町で食べられていたものを再現した朝食準備のお手伝いし、私たちも頂くことができました。その後、風神窯にて陶芸体験を行い、片山氏が作り上げられたオサラッペ焼という独自の焼き物文化に触れ、私たちも「成形」を体験した。その後、旭川市立大学に訪問し、黒川伸一ゼミとの意見交換を実施した。鷹栖町の魅力をどう発信していくかについて議論を重ねた。

■ 2月7日（6日目）

ふらっと広場をオープンし、フリースペースとしての場を提供した。当日は私たちが在中し、「なんでも相談会」という形で開催したところ、幅広い世代の方に利用していただいた。パソコンの使い方や三角関数など様々な質問にお答えしながら、地域の方との交流を図ることができた。



2月2～8日活動報告

■ 2月8日（7日目）

鷹栖高等学校の先生方と探究教育を今後実施していくにあたって重要と
なってくる授業の運営方法や当日使用する教材やカリキュラムについて、
調整を行った。実際に教鞭をとられている先生だからこそわかる視点やノ
ウハウを吸収し、教材とカリキュラムの向上を目指す。

先生方との面談後、旭川市で開催されていた雪まつりを見学し、雪像の技
術力の高さに圧倒されるとともに、工夫や発想の豊かさを実感した。



3月16～21日活動報告

今回の出張中には、2023年度活動報告会と新規メンバーの地域への理解を深めることが最優先であり、活動を行う。また、鷹栖高等学校との探究教育の実現に向けて、関係者の方と議論を続けていくことに重点を置く。

■目的

年度末報告会を実施し、地域の方に今年度の活動を理解していただくため。また、交流会などの機会を設け、来年度もより良い関係を築くため。さらに、来年度の鷹栖高等学校の授業の準備として、町内への理解を深めるため。

■参加メンバー

落合真弘、加藤大宗、キムミンソン、小林美月、竹本晴登、田中真綾、蒲地陽太郎

3月16～21日活動報告

■スケジュール

日付	活動名	活動内容
3月16日	2023年度成果報告会	前年度活動報告及び懇親会実施
3月17日	鷹栖町民インタビュー	ボランティア活動関連インタビュー
3月18日	周辺地域の公共施設視察	美瑛・東川・当麻・旭川の道の駅見学
3月19日	鷹栖高等学校探究模擬授業	高校2年生の総合的な探究の時間にて模擬授業の実施
3月19日	静福寺インタビュー	静福寺でのイベント活動に関するインタビュー
3月20日	加藤瑛瑠氏との面談	加藤瑛瑠氏との意見交換の実施
3月21日	鷹栖町内施設見学	6月実施予定の鷹栖高等学校町内バスツアーのルート確認

3月16～21日活動報告

■成果

ふらっとにて2023年度の成果報告会を開催し、今年度の活動内容をふらっとGOや旭川市立大学黒川伸一ゼミ、地域の方に報告した。参加した方からの質疑などを通してフィードバックをいただき、来年度の活動の主軸である地域の魅力発信や探究授業についてを見直すことや、より多くの地域の方に関わりをもってもらおうことなどの課題を再認識することができた。

また、町内・周辺施設の視察や地域で活動している方にお話を伺うことで、来年度の活動に向けて地域の魅力発信方法や地域の方の活動参画促進などに関するヒントや知見を得ることや、新たな関係構築と本プロジェクトの認知度向上を促すことができた。

鷹栖高等学校では、旭川市立大学黒川伸一ゼミの学生とともに2年生の「総合的な探究の時間」の授業を実施し、来年度の本格的な探究授業参画に向けて高校生の雰囲気をつかむことができた。今回の経験とその後の学生のアンケートから、来年度の連携活動の計画を練っていく。

3月16～21日活動報告

■ 3月16日（1日目）

旭川市立大学黒川伸一ゼミの学生と打ち合わせを行い、来年度の連携方針について固めた。その後、年度末報告会を実施し、地域の方に本プロジェクトの活動成果を報告した。質疑応答では、本プロジェクトが地域活性として今年度活動する中で学んだことや感じたことに対する質問や、活動に積極的ではない方に対するアプローチについてなど来年度に向けてのご指摘などいただき、改めて私たちの活動を見直す機会となった。

■ 3月17日（2日目）

鷹栖町内在住のボランティア活動を行なっている方、3名にお話を伺った。鷹栖地区や北野地区で寺子屋を開催している方や婦人ボランティアに参加している方から、ボランティアを始めたきっかけや原動力など、今後、高校生と接する中でのヒントとなるお話を伺った。



3月16～21日活動報告

■ 3月18日（3日目）

鷹栖町付近の周辺施設の利用について理解を深めるため、旭川・東川・当麻・美瑛にて計5ヶ所の道の駅を視察した。各地域によって商品や魅力発信に特有の工夫があることや関連する他地域の特産品や情報も発信していることから、地域の魅力発信の場や方法としての可能性を感じた。

■ 3月19日（4日目）

鷹栖高等学校の2年生36名を対象に「日常を探究の視点で見ることで、ワクワクした毎日を送ろう」という探究の授業を実施した。学校の中で探究をするフィールドワークでは生徒が集中力を持ってたくさんの問いを見つけられていた。その後、静福寺で実施されている夏のJazz Festivalについて積極的に活動されている佐々木美樹氏より、お寺の利活用イベントの実施についてお話を伺った。



3月16～21日活動報告

■ 3月20日（5日目）

工房そなもの加藤瑛瑠氏にお話を伺った。寄木細工の作り方や作るに至った経緯など鷹栖町でのものづくりに関するお話だけではなく、音楽を通して加藤氏が実現したいことやできることについてのお話を聞いた。今後、加藤氏のような地域で活躍されている方をより活躍させる場づくりをしていきたいと感じた。



■ 3月21日（6日目）

来年度の鷹栖高等学校で6月に実施予定の探究授業フィールドワークに向けて鷹栖町内を視察した。主に自然を感じられるエリアとまちなどのエリアにわけて視察を行った。それぞれいくつか候補が上がった。今後、授業内容を明瞭にしていく中で、今回の視察を活かしてフィールドワークの場所を決めていきたい。



年度末報告会 (小林資料①)

鷹栖町元気プロジェクト 令和5年度年度末報告会

慶應義塾大学3年小林美月

目次

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 鷹栖町元気プロジェクトとは？ | 3. アンケートまとめ |
| 1-1. プロジェクト発足 | 3-1. アンケート集計結果 |
| 1-2. 昨年度の活動 | 3-2. 探究授業 |
| 2. 今年度の活動 | 4. 来年度の活動 |
| 2-1. アンケート実施 | 4-1. 来年度スケジュール |
| 2-1-1. 鷹栖地区 | 4-2. 地域魅力発信 |
| 2-1-2. たかすマルシェ | 4-3. 高校生に向けた探究授業 |
| 2-1-2. たかす誕生まつり | |
| 2-2. 鷹栖高校連携に向けて | |




鷹栖町元気プロジェクトとは？

- 1-1. プロジェクト発足
- 1-2. 昨年度の活動

1-1. プロジェクト発足

鷹栖町住民センター「ふらっと」を有効活用し、
鷹栖町を元気にする！！

2022年度5月の事前活動を経て
2022年9月に正式にスタート！



年度末報告会 (小林資料)

参考：メンバー紹介



<p>小林美月 #横浜市 #音楽 #防災</p>	<p>キムミンソン #韓国 #留学 #コミュニティ</p>
<p>田中真綾 #北海道紋別市 #上京 #茶道</p>	<p>菊地陽太郎 #伝統文化 #有田焼 #サウナ</p>

参考：メンバー紹介



<p>落合真弘</p>	<p>加藤大宗</p>	<p>富澤侅之介</p>
<p>西川草羽</p>	<p>竹本晴登</p>	

1-2. 昨年度の活動

- 7月 事前授業



1-2. 昨年度の活動

- 9月 夏合宿



年度末報告会 (小林資料)

1-2. 昨年度の活動

- 1 1月 発足後初フィールドワーク



1-2. 昨年度の活動

- 1月 たかす誕生まつり打ち合わせ



1-2. 昨年度の活動

- 2月 たかす誕生まつり



1-2. 昨年度の活動

- 3月 年度末報告会



年度末報告会 (小林資料)



2. 今年度の活動

2-1. アンケート実施

- 2-1-1. 鷹栖地区盆踊り大会
- 2-1-2. たかすマルシェ
- 2-1-2. たかす誕生まつり
- 2-2. 鷹栖高校連携に向けて

2-1. アンケート実施

【アンケートの実施目的】
ふらっと利用者の利用目的や動機、求めるものなどを知り、
私たちの今後の活動につなげるため

盆踊り大会

射的の縁日を出展し、
アンケートを実施
した

たかすマルシェ

どうもろこしの販売
を行い、アンケー
ト・インタビューを
実施した

たかす誕生まつり

雪の遊び場の運営、
鷹の演舞発表を行い
インタビューを実施
した



2-1-1. 鷹栖地区盆踊り大会

- ふらっとで開催された鷹栖地区盆踊り大会に、射的の縁日を出展し、アンケートを実施した。多くの子どもたちを楽しんでもらうことができ、計106人のアンケート収集、分析を行った。



2-1-2. たかすマルシェ

- たかすマルシェで、どうもろこしの販売を行いながら、インタビューを実施した。計19名の方のお話を伺った。



年度末報告会 (小林資料)

2-1-2. たかす誕生まつり

- たかす誕生まつりでは、雪の遊び場づくりとして、町内の小中高校生と旭川市立大学黒川ゼミの学生と一緒に、すべり台・かまくらを制作した。2日目は、飯盛研メンバーが鷹の舞を演舞した。



2-2. 鷹栖高校連携に向けて

- 打ち合わせ・授業への参加を通して、連携の準備を行った。
 - 11月 打ち合わせ・国語の授業への参加
 - 1月 来年度 探究授業打ち合わせ
 - 2月 ボランティア部・美術部と活動



2-2. 鷹栖高校連携に向けて

- 来年度の連携方針

① 探究授業への参画

→ 来年度、6回程度対面・オンラインの両方で実施予定

② ボランティア部と連携した活動

→ 飯盛研の地域活動に参加予定



3. アンケートまとめ

- 3-1. アンケート集計結果
- 3-2. この2年間で感じたこと
- 3-3. 結果と考察
- 3-4. 来年度の活動

年度末報告会 (小林資料)

3-1. アンケート集計結果

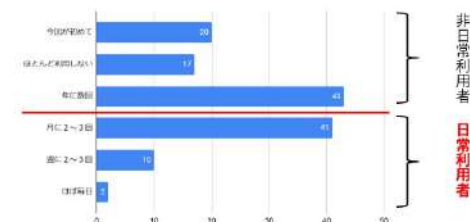
・アンケート概要

	集計者数(人)	質問項目
盆踊り大会	134	<ul style="list-style-type: none"> ふらっとの利用頻度 ふらっとの利用目的 ふらっとの利用動機
たかすマルシェ	19	<ul style="list-style-type: none"> ふらっとの利用頻度 ふらっとの利用目的
たかす誕生まつり	16	<ul style="list-style-type: none"> ふらっとの利用目的 ふらっとに求めるもの
合計	169	



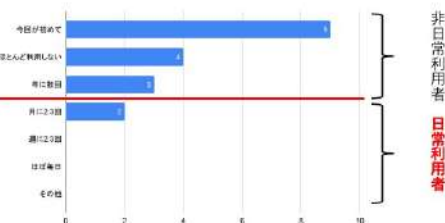
参考：ふらっとの利用頻度 (盆踊り大会)

ほぼ毎日利用してる人は全体の1.5%のみであり、
月に2～3回以上利用している人は全体の約40%である。



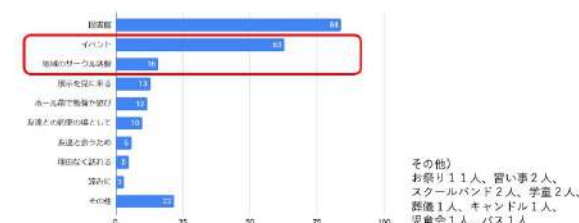
参考：ふらっとの利用頻度 (マルシェ)

月に2.3回以上利用している人の割合は、約10%のみである。
→このうち鷹栖町内の利用者は「友人や家族に誘われた」と回答している



参考：ふらっとの利用目的 (盆踊り大会)

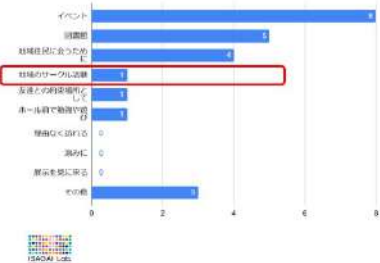
利用目的が多かった項目は、図書館8人、イベント63人を占めている。今後は、日常利用者につながる地域のサークル活動16人に着目すべきである。



年度末報告会 (小林資料)

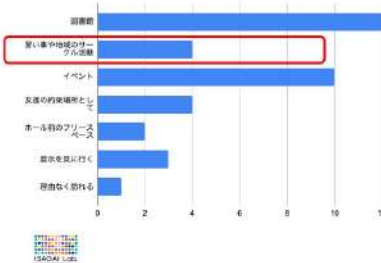
参考：ふらっとの利用目的 (マルシェ)

イベント利用が全体の約35%と最も多く、図書館の利用と合わせて全体の半数以上を占めている。反対に、地域のサークル活動などの利用者が少ない。



参考：ふらっと利用目的 (誕生まつり)

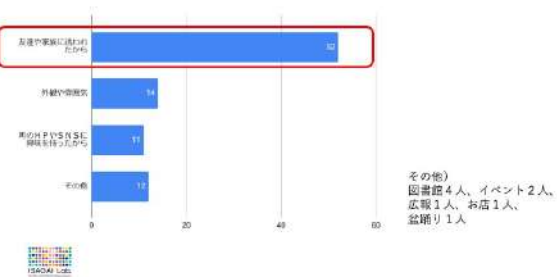
図書館利用の75%に次ぎ、イベント利用が全体の約62%と多い。サークル活動は25%とここでも少なく、友達との約束場所と同様に伸び代があると考えられる。



参考：ふらっと利用動機 (盆踊り大会)

「友達や家族に誘われたから」という理由で初めて訪れた人が52人と、58%を占めている。

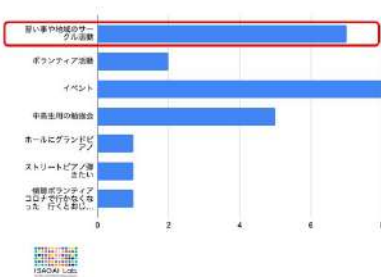
→住民の方同士の話のネタとなるモノを増やすべき



参考：ふらっとに求めるもの (誕生まつり)

イベントに次いで「新しい事や地域のサークル活動」、「中高生用の勉強会」が多く占めている。

→多くの人が通いの場として求めている



年度末報告会 (小林資料)

3-2. この2年間で感じたこと

【2022年夏合宿の様子】
ふらっとの中は閑散としており、イベント以外での利用が少ないと感じた



ふらっとGOが指定管理者になり

【現在の様子】
現在、利用者増加やイベントなども増え、ふらっとは賑わいを見せている



3-3. 結果と考察

【結果】
多くの人はふらっとに定期的に参加する「通いの場」を求めている



この結果から

【考察】
ふらっとの外から人を呼ぶためのコンテンツ
ex) 鷹栖高等学校の授業・オサラップまちづくり協議会・鷹栖町内の高校生への探究学習など



3-4. 来年度の活動

- 来年度は、以下の2つを軸として活動を行う

地域の魅力発信

- 地域の方へのインタビュー
- 周辺視察
- 鷹栖高校のボランティア部と活動

高校生への探究授業

- 鷹栖高校の探究授業
- 鷹栖町内の高校生に向けた探究授業



4. 来年度の活動

- 4-1. 来年度スケジュール
- 4-2. 地域魅力発信
- 4-3. 高校生に向けた探究授業

年度末報告会 (小林資料)

4-1. 来年度スケジュール

施策	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
①地域魅力発信				たかす誕生まつり
	おさらっぺまちづくり研究会			
	鷹栖高等学校 課外活動			
②探究授業	旭川市立大学との連携事業			
	鷹栖高等学校の授業への参画		旭川市立大学引き継ぎ	
	教育委員会との連携事業			
	鷹栖町との事業	旭川市立大学との事業	鷹栖高等学校との事業	

4-2. 地域魅力発信

- 来年度も鷹栖誕生まつりに参加させていただき、お祭りを通して鷹栖町の良さを発信していく
- オサラッぺまちづくり研究会と連携し、鷹栖町の歴史について発信していく

4-3. 高校生に向けた探究授業

- 鷹栖高等学校にて、地域づくりの探究授業のカリキュラム作成&実施を行う
→授業の課外学習として、ふらっとを利用
- 鷹栖町内の高校生に向けて、地域の魅力発見をテーマに探究授業
→開催場所はふらっとを利用し、定期的なふらっとの利用を促進



さいごに

5-1. まとめとお願い

年度末報告会（小林資料）

5-1. まとめとお願い

- 令和6年度も継続して飯盛研の活動を行うので、ご協力をよろしくお願いいたします
- 今後の活動を飯盛義徳研究会のホームページやSNS等で発信していく予定ですので、今後の活動を見て、応援していただけると嬉しいです



年度末報告会 (飯盛資料)



鷹栖町元気プロジェクト
学生参加のまちづくり

慶應義塾大学SFC研究所所長／総合政策学部教授
いさがいよしのり
飯盛義徳
https://isagai.sfc.keio.ac.jp/
isagai@sfc.keio.ac.jp
©Yoshinori Isagai



いさがいよしのり
飯盛義徳、博士 (経営学)
慶應義塾大学SFC研究所所長／総合政策学部教授／慶應義塾評議員

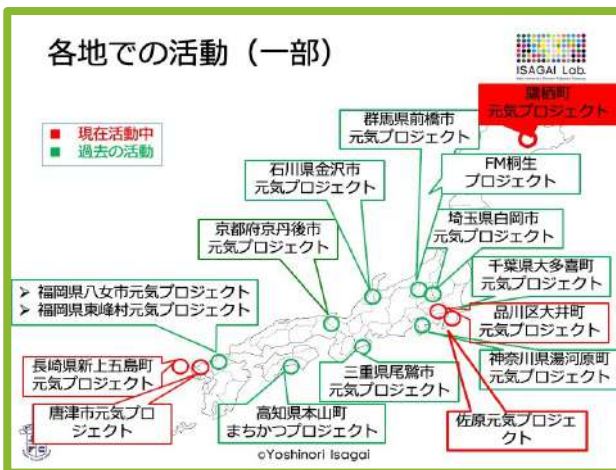
専門：プラットフォームデザイン、地域づくり、ファミリービジネスマネジメント

総務省地域力創造アドバイザー、国土交通省小笠原群島振興開発審議会委員、藤沢市教育委員会委員、前・内閣府中心市街地再生方策検討会座長、高知県中山間地域活性化アドバイザー、ファミリービジネス学会常任理事、情報社会学会理事、NPO 鳳雛塾 理事長 (ファウンダー)

佐賀市生まれ。長崎私立青雲高等学校卒業。上智大学文学部卒業後、松下電器産業株式会社入社。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了後、飯盛教材株式会社入社。NPO鳳雛塾設立。慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程入学。慶應義塾大学環境情報学部専任講師、〃総合政策学部准教授、〃教授、現在に至る。慶應義塾大学SFC研究所所長、〃総合政策学部学部長補佐などを務めた。




年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)



域学連携とは

ISAGAI Lab.

- 定義
 - 大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民やNPO等とともに、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成に資する活動。
- 活動事例
 - 地域資源発掘、地域振興プランづくり、地域マップづくり、地域の教科書づくり
 - 地域課題解決に向けた実態調査
 - 地域ブランドづくり、地域商品開発、プロモーション
 - 商店街活性化策検討、アンテナショップ開設
 - 観光ガイド実践、海外観光客向けガイドブックづくり
 - 環境保全活動、まちなかアート実践、子ども地域塾運営、高齢者健康教室運営 など

事務室 <http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/ichi_gyousei/c-gyousei/ikigakurenkei.html>

©Yoshinori Isagai



年度末報告会 (飯盛資料)

文部科学省地(知)の拠点整備事業

＜COC(center of community)機能について＞
 大学の役割は、教育と研究と社会貢献
 ↓
 COC機能は全ての大学に求められる機能
 ↓
 その中で事業目的に照らして特に優れた大学を重点的に支援
 「地(知)の拠点整備事業」

出所) 文部科学省高等教育局 (2014) 『地(知)の拠点整備事業について』。 ©Yoshinori Isagai

事業のねらい

＜「地(知)の拠点整備事業」の目標＞
 全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援

- ①地域の課題(ニーズ)と大学の資源(シーズ)のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取組を全学的に実施
- ②全学的な取組の明確化
- ③大学と自治体が組織的・実質的に協力

○学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進
 ○各大学の強みを活かした大学の機能別分化を推進

↓

地域再生・活性化の核となる大学の形成

出所) 文部科学省高等教育局 (2014) 『地(知)の拠点整備事業について』。 ©Yoshinori Isagai

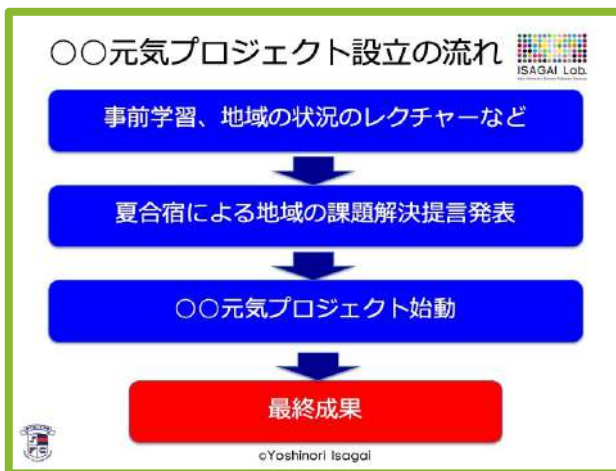


大学から見た地域大学連携

大学祭、イベントなど	実践活動あり 地域連携 産官学連携
大学内 地域の人々による講演、 公開講座、共同研究など	大学外 地域研究、 教員による講演など 実践活動なし

©Yoshinori Isagai

年度末報告会 (飯盛資料)

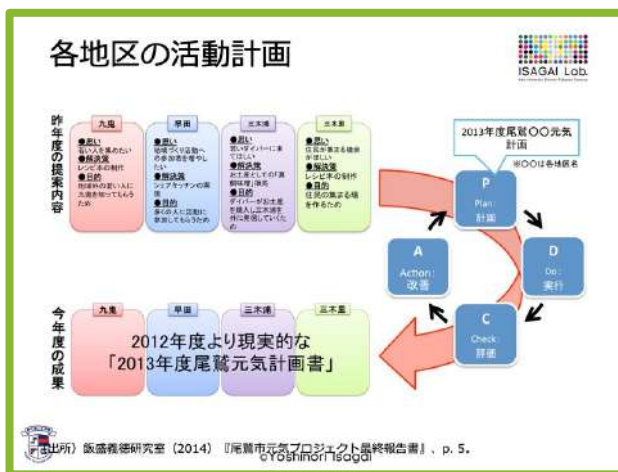


- 三重県尾鷲市の概況
- 人口
 - 16,079人 (2020年)
 - 特徴
 - 三重県南部の都市
 - 総面積の90%が山林
 - 沿岸部は変化に富んだリアス式海岸
 - その他 (資源など)
 - 多種多様な鮮魚
 - 熊野古道
- ©Yoshinori Isagai

年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)



金沢市の概況

- 人口
 - 462,628人 (2021年)
- 特徴
 - 石川県の県庁所在地
 - 北陸地方の中核都市
 - 全国的にも有名な観光都市
- その他 (資源など)
 - 九谷焼
 - 金箔 (シェア98%)、銀箔 (シェア100%)
 - 漆器 (輪島、山中など)
 - 加賀友禅

©Yoshinori Isagai

学生のまち推進条例

- 学生のまちの推進は、地域社会全体で学生を育む社会的気運を醸成しながら、行われなければならない
- 学生のまちの推進は、その主体は学生であるという認識のもとに、学生の自主性を尊重しながら、その自主的な活動を促進することを基本として行われなければならない
- 学生のまちの推進は、学生、市、市民、町会等、高等教育機関及び事業者がそれぞれの役割を認識し、これらの者の相互の理解と連携のもとに、協働して行われなければならない

(出所) 金沢市「学生のまち・金沢 学生のまち推進条例」
 <<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/22050/gakusei/jyorei.html>>.
 ©Yoshinori Isagai



年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)



金沢市元気プロジェクトの現在

女子学生が目線で地域の魅力発信

加賀九谷 × かなざわ娘
九谷焼ブローチ・箸置き

(出所) BSテレビ東京「羽田土曜会」飯盛穂穂教授と稲解く「城学連携」(前編)
<<https://www.youtube.com/watch?v=EwVrvQ5YCS8>> から許可を得て掲載。
©Yoshinori Isagai

白岡市元気プロジェクト
2017年~2019年
農業地域のコミュニティ再生

埼玉県白岡市

©Yoshinori Isagai

年度末報告会 (飯盛資料)

白岡市の概況

- 人口
 - 52,623人 (2021年)
- 特徴
 - 埼玉県の中東部にある都心のベッドタウン
 - 2012年に町から市へ
 - 川が29本 (うち一級河川9本)
- その他 (資源など)
 - 梨
 - 寺社仏閣

(出所) 白岡まちなび <<http://www.shiraokanavi.com>>
©Yoshinori Isagai





年度末報告会（飯盛資料）



年度末報告会 (飯盛資料)



(提供) 白岡市役所 千葉智則氏。



(提供) 白岡市役所 千葉智則氏。



(提供) 白岡市役所 千葉智則氏。



《出所》BSテレビ東京「羽田土曜会」飯盛義徳教授と相解く「域学連携」(後編)
https://www.youtube.com/watch?v=8uQI_Z0P7n0 から許可を得て掲載。
 ©Yoshinori Isagai

年度末報告会 (飯盛資料)



地域大学連携による地域のメリット

- 新しい地域資源の発掘
- 地域の人々の主体性の発揮
- 地域内外の新しいつながりの形成

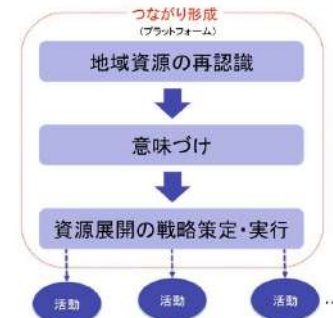
©Yoshinori Isagai

地域資源

- ヒト
 - 住民、自治体、企業、NPOなどの主体
- モノ (見えるもの)
 - 自然環境、史跡、農水産物など
- カネ
 - 予算など
- 情報 (見えないもの)
 - 歴史、文化、ストーリー、ブランドなど

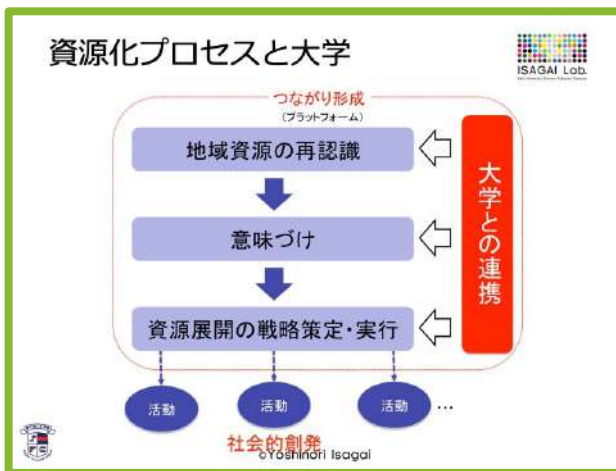
©Yoshinori Isagai

地域の資源化プロセス



©Yoshinori Isagai

年度末報告会 (飯盛資料)



新しい地域資源の発掘

- 世代も地域も違う新たな視点
 - 学生の視点は非常に新鮮に感じました。
 - 外の目からの見た町に対する分析、提案を頂き有り難うございました。
 - 外部から見た若者の感性と視点には感心した。

(出所) ある地域での活動後の地域の人々を対象とした調査より。

©Yoshinori Isagai



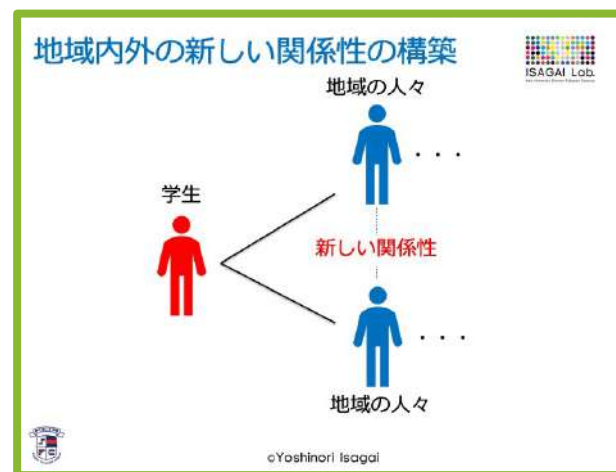
主体性の萌芽

- 何らかの実践
 - 商品開発に取り組んで近い時期に地元で販売をしたいと思います。
 - すぐに研究室のメンバーにはお土産として発送、商品開発にはずみがつきました。
 - いろいろ考えるより、積極的に行動に移したいと思います。

(出所) ある地域での活動後の地域の人々を対象とした調査より。

©Yoshinori Isagai

年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)



Invitation
Pla・Pla
— プラッと立ち寄り、地域にプラスになることを —

習志野 × 白岡 × 前橋

地域づくりの取り組みでいっしょにまちが元気になり、地域づくりのプラスになるコミュニティを目指しています。こんな取り組みからこそ、離れた地域で繋がっている人となりが生まれてみませんか？

タイムテーブル

- 20:00 0の巻頭・ひとこと自己紹介
- 20:10 高次塚プロジェクト紹介
- 20:15 総経理対談ライブ大会
- 20:45 各地域の活動紹介
- 21:05 クール・アワー
- 21:30 盛り上げ

お楽しみアイテムで
誰かお世話になった地域を
自由に発表します！

日時：2020年5月16日(土) 20:00-21:30
場所：オンライン (Zoomを使用予定)
内容：習志野市・白岡市・前橋市の取り組み紹介
各地域の本場み相談、雑談 など
参加費：紙、ペン、飲み物 (各自持ち込み可)

©Yoshinori Isagai



地域大学連携プロジェクトの意義

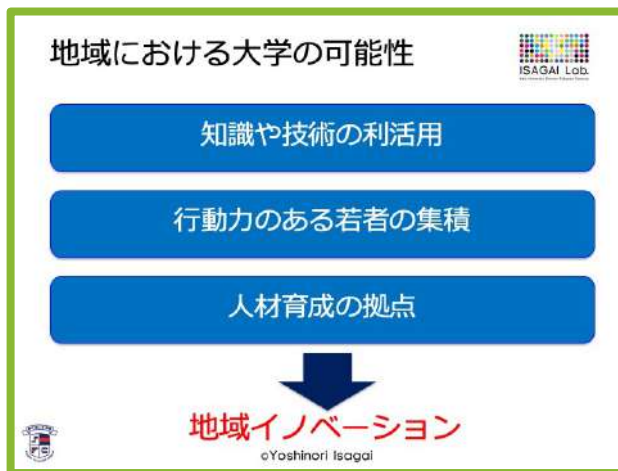
学生の視点をいかして、地域の魅力を再発見するとともに、地域の新しいつながりをつくり、担い手の確保・育成を実現

↓

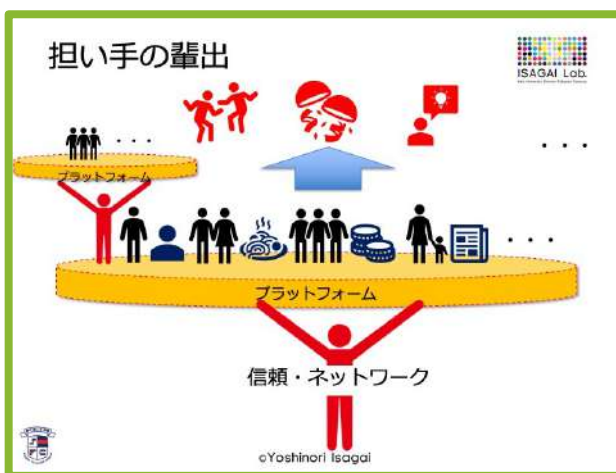
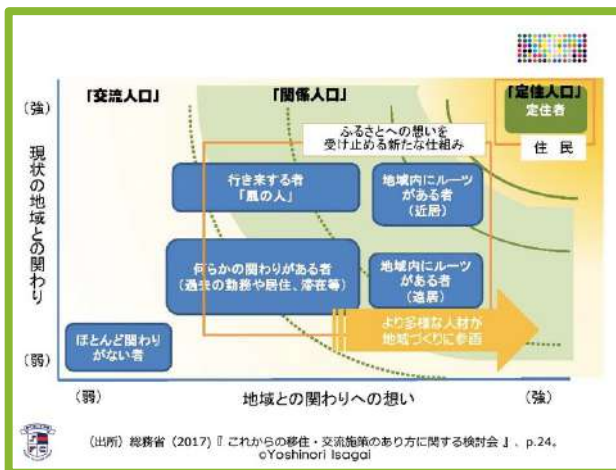
地域の自走力

©Yoshinori Isagai

年度末報告会 (飯盛資料)



年度末報告会 (飯盛資料)





4. 成果と概要

- 4-1. 令和5年度のまとめ
- 4-2. 今年度の成果
- 4-3. 今年度の反省

4-1. 令和5年度のまとめ

課題	ふらっとを拠点とした鷹栖町の活性化	
解決策	アンケートを実施し、ふらっとに求めているものを明確にする	
結果	ふらっとに定期的に通えるコンテンツ（下記2つ）を用意し、交流の場を創出する	
成果	<p>【鷹栖町魅力向上コンテンツ】</p> <p><u>①地域活動への参加</u> 地域のイベントやボランティアに参加し、地域の方と交流し、鷹栖町の魅力をより一層深めることができた。</p> <p><u>②協力団体への交渉</u> オサラッペまちづくり研究会への参加や鷹栖高等学校への訪問を行い、協力を呼びかけた。</p>	<p>【町内高校生へのコンテンツ】</p> <p><u>①鷹栖高等学校との連携事業</u> 打ち合わせや実際に生徒と関わり、来年度のカリキュラム構築に向けて理解を深めることができた。</p> <p><u>②教育委員会との連携事業</u> 町内の子どもたちへのアプローチを考える中で、鷹栖町在住の高校生に向けて、有志で行うプロジェクトを実施することが決定した。</p>

4-2. 今年度の成果

①鷹栖町元気プロジェクトの認知向上

たかす誕生まつりなどの地域のイベントに参加やまちづくり懇談会などの地域の方と交流する機会を設けていただき、本プロジェクトの活動をより知っていただくとともに、地域の方から鷹栖町の魅力をお聞きすることができた。

②来年度以降の活動への協力

来年度以降、本プロジェクトの活動を引き継いでいただくため、旭川市立大学黒川伸一ゼミの教授黒川伸一氏と学生に活動に参加していただいた。また、鷹栖高等学校の学生や町内在住の高校生もボランティアで活動に参加してもらい、来年度以降の活動の引き継ぎを呼びかけた。来年度の活動で、本格的に引き継ぎに向けて活動を行っていく。

4-3. 今年度の反省

①関わってきた地域の方に偏りがある

鷹栖町内の地域イベントやボランティア活動に参加し、地域の方と交流を深めてきたが、積極的に地域活動に参加してくれている一部の方に交流が偏っていることが反省点である。来年度は、今まで参加してこなかった活動にも参加し、さらに地域に溶け込んでいきたい。

②鷹栖地区以外での認知度が低い

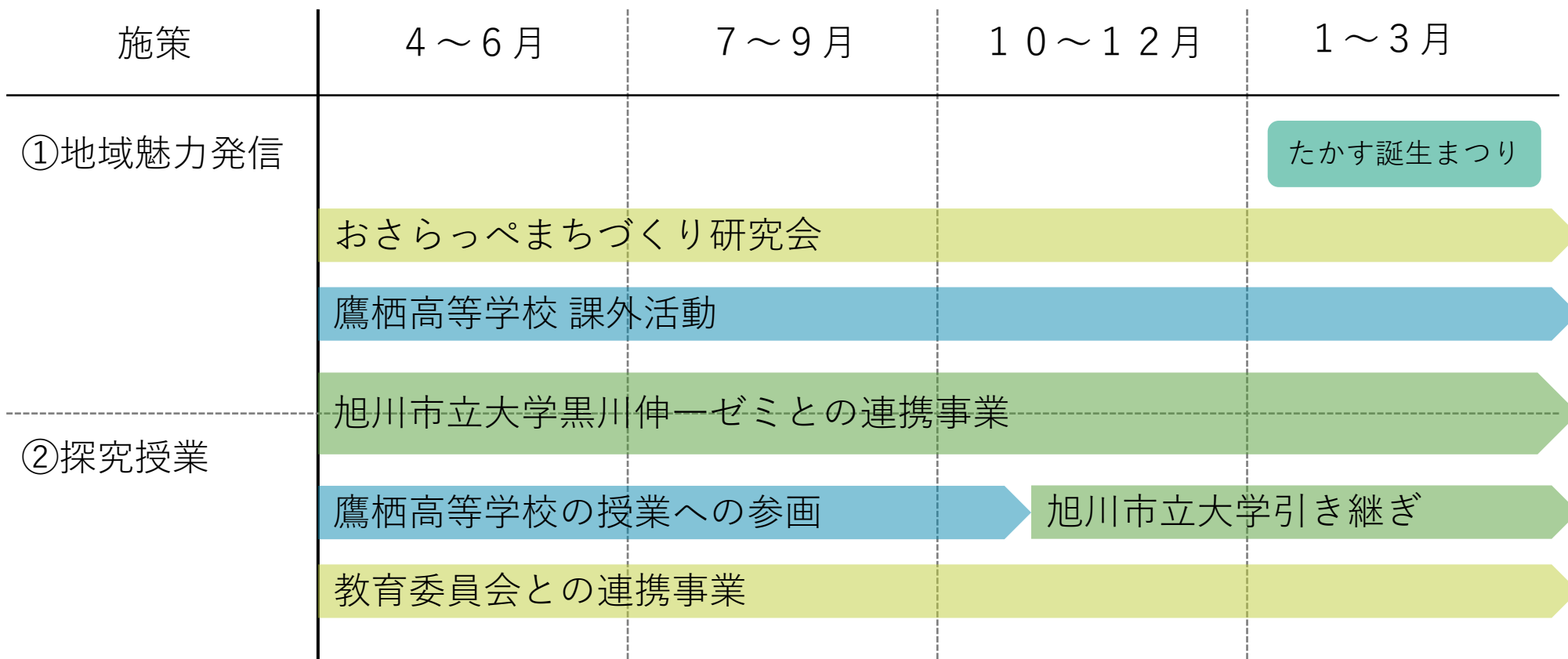
鷹栖町には、鷹栖地区、北野地区、北成地区、北斗地区、中央地区と5つの地区が存在するが、鷹栖地区以外での活動に参加する機会が少なく、町内全体に本プロジェクトの活動が行き届いていないことが課題である。



5. 来年度の活動予定

- 5-1. 来年度スケジュール
- 5-2. 来年度活動の詳細

5-1. 来年度スケジュール



5-2. 来年度活動の詳細

■地域魅力発信

- 来年度もたかす誕生まつりに参加させていただき、お祭りを通して鷹栖町の良さを発信していく。
- オサラッペまちづくり協議会と連携し、鷹栖町の歴史について発信していく。

■探究授業

- 鷹栖高等学校にて、地域づくりの探究授業のカリキュラム作成&実施を行う
 - 授業の課外学習として、ふらっとを利用
- 鷹栖町内の高校生に向けて、地域の魅力発見をテーマに探究授業
 - 開催場所はふらっとを利用し、定期的なふらっとの利用を促進



令和5年度「鷹栖町元気プロジェクト」 令和5年度活動報告書（事業成果資料）

令和6年3月

飯盛義徳研究室

〒252-0882神奈川県藤沢市遠藤5322

E-Mail: isagai@sfc.keio.ac.jp

総責任者:飯盛義徳

本プロジェクトは、北海道上川郡鷹栖町と飯盛義徳研究室の「住民活動を創造する研究」において推進する鷹栖町と同研究室との域学連携事業である。プロジェクト推進にあたり、鷹栖町の皆様に多大なるご支援、ご協力を頂いた。ここに感謝したい(令和6年3月)。